



「筑波山塊の花崗岩（稲田花崗岩・加波山花崗岩）」 世界のヘリテージストーン（天然石材遺産）に認定



筑波山塊の花崗岩をふんだんに使った迎賓館赤坂離宮(国宝)

国際地質科学連合（IUGS。事務局＝現在は中国）が実施するプログラム「IUGS Heritage Stone」に、筑波山地域ジオパークの地質遺産「筑波山塊の花崗岩」が去る七月六日付けで認定された。

「IUGS Heritage Stone」とは、「国際的価値が高く、人類との関わりが古い天然石を、ヘリテージストーン（天然石材遺産）に認定するプログラムで、それらの産地、地質学的特徴や石材としての特性、そして人類の文化的活用や歴史を英語文書として後世に残すこと」が目的。

今回認定された「筑波山塊の花崗岩」とは、主に稲田花崗岩（稲田石・羽黒青糠目石・坂戸石などの名称で呼ばれる）と、加波山花崗岩（真壁石やさとみかけ・多喜石などの名称で呼ばれる）のことで、石材業界にとって嬉しい認定だ。

「筑波山塊の花崗岩」の同プログラムへの申請は今年二月、つくば市ジオパーク室（茨城県）

と糸魚川ジオパーク協議会（新潟県）が中心となっており、石材見本を提出するなどして認定に至った。

今回の認定は日本のみならず東アジア地域初で、現時点で世界を代表する五十五のヘリテージストーンの一つとなる。国際地質科学連合の公式ホームページに五十五のヘリテージストーンが紹介されているので、ぜひご覧いただきたい（同紹介をまとめた本のPDFデータ（英文）も無料でダウンロードできる）。

「筑波山塊の花崗岩」を使った石造物については、本誌の「誌上II 東京駅周辺『石』めぐりツアー（後）」でも多数紹介しているので、併せてご覧いただきたい（62〜77頁）。

この認定を機に、石材業界を大いに盛り上げていきたい。

◎国際地質科学連合

<https://iugs-geoheritage.org/>